

R. K. (社会システム学科・2 年次生)

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

私は、小さい頃から両親や祖父母に旅行に連れて行ってもらう機会が多く、旅行が大好きで、中学生の頃からいつか長期留学をして、異文化に直接触れたいと考えていました。大学で Semester 語学留学という制度があると知ったので、この機会を利用して行こうと決めました。

② 留学決定から出発までの準備期間

出発までは、勉強面では TOEIC の問題集を解いたり、単語を覚えたりしていました。また、カナダでスマホを使えるように SIM カードの設定を行いました。

③ 現地到着後

空港に着いたら、ホストマザーが私の名前の書いたカードを持って待っていてくれました。空港から家までは車で 30 分くらいで、マザーの友達が運転してくれました。ウィニペグに着いた当日は、経験したことがないくらい寒くてびっくりしました。学校初日のオリエンテーションは、9 割が日本人で驚きました。オリエンテーションでは、学校の授業の説明やキャンパスツアーをしてくれました。

④ 語学研修機関

◆ 施設・環境・スタッフ

マニトバ大学は敷地がとても広いので、場所を覚えるのが大変でしたが、カフェや薬局、コンビニなどもあったため、とても便利でした。また、ウィニペグならではの寒い冬に対応して、大学内には地下通路があるため、寒い冬でも外に出ずに教室を移動することができます。図書館もとても広いので、テスト前にはそこで友達と勉強したりしました。

◆ 授業内容、課題、試験

授業内容は Reading、Speaking、Listening、Writing、Grammar の項目ごとに分かれていて、上のクラスになるとレベルの高い授業を受けることができました。毎日の課題は、基本的には 1 時間以内には終わる量でしたが、時にはプレゼンテーション準備もあるため、日により宿題量は異なりました。クラスは 1 クラス 20 人くらいですが、日本人がとても多く、アジア人が大半を占めていました。クラス替えは 2 か月ごとであり、テストの点数と授業内の点数で決まります。テストは毎月末にあり、パソコンで受けなければならないのですが、パソコンで長文を読むことがとても大変でした。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

週 2 回午後まで授業があり、それ以外の日は授業が午前中までなので、放課後はアクティビティがありました。アクティビティは他のクラスメイトと接することができる機会なので、最初の頃は積極的に参加しようと思ったのですが、参加者のほとんどが日本人で、日本人が集まる場所になっていたため、興味のあるアクティビティにだけ参加しました。

アクティビティでは、動物園や海に行ったり、トロリーに乗りウィニペグの街を散策したり、大学内のホッケーのリンクでスケート体験をしたり、カナダでしかできない貴重な時間を過ごすことができました。

⑥ 現地での住まいについて

ホームステイ先の家族構成は、マザーと3人のブラザー（23歳、19歳、11歳）の4人家族でした。マザーは、毎日朝から昼まで働いていてとても忙しそうでしたが、おいしいご飯を作ってくれて、毎日帰ってきたら「今日はどうだった？」と私の相談相手にもなってくれ、とても優しいマザーでした。一番下のブラザーはとてもかわいくて、たまに一緒に散歩に行ったりボールで遊んだり、無邪気に私に話しかけてくれて、最初の頃、私の緊張をほぐしてくれる存在でした。マザーが忙しかったため、遠くへ出かけたりすることはなかったけれど、毎日の夜ご飯の時間や何気ない日常が本当に大切な時間でした。朝は自分でパンを焼いて食べて、昼は前日の夜ご飯を詰めたお弁当をマザーが用意してくれたので、それを持っていきました。家は、日本に比べてとても大きくて、バスルームが3か所、ランニングマシンもあり、日本の自分の家よりも快適に過ごすことができました。また自分専用のバスルームがあったので、時間を気にすることなくシャワーを浴びることができました。家から大学までの通学時間は40分弱でバス一本で行くことができました。しかし、土日は最終バスが18時までで、さらに本数が少なく、行く場所が制限されてしまうことが多かったため、その点では不便でした。また、交通手段がバスしかないので、車がない留学生にとってはとても不便な生活でした。

⑦ 長期休暇の過ごし方

1セメスターが終わると約10日間のブレイクがあり、ニューヨークとロサンゼルスに行きました。日本から行くよりも安く、簡単に行くことができとても楽しかったです。ロサンゼルスに行ったときは、ツアーでグランドキャニオンにも行きました。今まで見たことのないくらい壮大な景色を見ることができ、一生忘れない光景だと思いました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も印象に残っていること

留学中楽しかったことは、いろんな国の友達と出会って一緒に出掛けたりすることができたことです。放課後は、ウィニペグでおいしいご飯を食べに行ったり、イベントに参加したりしました。日本以外の国の友達と、お互いの国の話をしたり、共通点や違いを見つけたり、様々な話をすることで他の国の文化を知ることができました。また、お互いスピーキングの向上にもつながりとても楽しい時間を過ごすことができました。多くの友達が日本について興味を持ってくれたので、とても話しやすかったです。その友達とは今でも連絡を取り合っていて、お互いの国で会う約束もしています。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

カナダに着いて最初の1週間くらいは、マイナス15度くらいの寒さが続き気分も下がりが慣れない生活だったのでずっとホームシックでした。しかし、2週間くらい経つと、気温

もだんだん上がり、やっと気温が一桁台になったところから生活にも慣れて、そのような気持ちになりました。新しい生活に慣れるまでは本当につらかったです。

③ 文化、習慣などの違いで驚いたこと

洗濯を毎日しないところです。カナダの家庭は週に1・2回洗濯するのが一般的です。マザーがいつでも洗濯していいよと言ってくれたので、私は多いときは週2回洗濯をしていました。

Ⅲ. 留学志望者へのアドバイス

① 日本から持って行って特に役立つもの

パソコンと電子辞書は絶対に必要だと思います。パソコンは、月報を書くときや、授業のパワーポイントを作るときに使いました。あと、カナダにはウェットティッシュがないのでたくさん持って行きました。日本食もたくさん持って行きましたが、ホームステイ先でおいしいご飯を食べることができたので半分くらい残して帰ってきました。

② 語学力の向上、留学の成果、留学前と後で変わったこと

留学を通じていろいろな国の人と出会ったことで、それぞれの国の文化の違いなど、今まで知らなかったことに興味を持つようになりました。また、カナダは多文化主義国家なので、様々な人種の方に出会うことができ、あらゆる面で視野が広がったと思います。学習面では、リスニング力とスピーキング力は確実に伸びたと思いました。カナダに行って2か月くらいは、接する人によって英語が聞き取れたり聞き取れなかったりと差がありましたが、3か月が経過すると、英語が耳に定着して、英語を耳で聞き、英語のまま頭で理解することができるようになりました。その頃からいろいろな映画を放課後に見に行きました。スピーキングは、積極的に失敗を恐れずに話しかけていたので、自分の考えを簡単に表現することができるようになりました。

③ これから留学を考えている方にアドバイス

留学中は、想像もできないくらいつらいことも楽しいこともたくさんあります。でも、帰ってきて思い返すと、留学しないとできない貴重な体験や思い出だったと思います。留学する目的は、語学力の向上はもちろん、5か月間カナダで生活することで異国の文化や習慣が学べて、旅行とは異なり長期滞在をするからこそ海外の良い点や悪い点もわかり、精神面でも成長することだと思います。また、自分と同じように英語を学びに来ている様々な国の友達にも出会えて、英語に対する意識が高まりました。留学できるのは学生のうちしかないと思うので、もし今留学に行くか行かないか悩んでいるのであれば、是非チャレンジしてみてください。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

今後の目標は TOEIC で卒業までに設定した目標点数を達成することと、英検準一級を取得することです。また、留学を通していろんな国の友達と出会い、異なる文化を知ることができたので、より深く学びたいと思いました。日本にいとカナダにいた時と比べて外国人と関わるができる機会は少ないけれど、留学で培ったものを損なわないようにしたいです。将来はこの経験を活かすことができる旅行会社か外資系企業に就職したいと思っています。

V. 写真



イディオムの授業では、自分が決めたイディオムの意味、起源や使い方を説明するプレゼンテーションがありました。その授業終わりにクラスみんなで写真を撮りました。ベトナム人、台湾人、中国人、フランス人、パキスタン人、コロンビア人、様々な国の友達と出会うことができました。



帰国日の前日、学校に行く最後の日に友達と一緒にマニトバ大学内で一番立派な校舎の前で撮りました。ここでは、映画の撮影が行われたりしていました。

M. S.（社会システム学科・2 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

私が幼少の頃から目指している職業には必ず英語が必要で、今のままでは自分の英語のスキルに納得できなかつたので、英語力を上げるために留学を志望しました。また、私のアルバイト先にはたくさんの海外の方が来られ、英語でコミュニケーションをとっていた際に、もっともっと自分の思っていることを相手にも伝えてお互いに分かり合える様になりたい、と思ったのがきっかけです。

② 留学決定から出発までの準備期間

英語に慣れた耳になる様に、日本語字幕の洋画を観たり、洋楽を聴いたりバイリンガルの方の YouTube をみて、学んだことや留学先で使えそうだなと思った会話をメモしたノートを作るなどして、自分で工夫をしていました。また、単語帳は毎日見る様にしていました。eTA は 1 月下旬にパソコンで申請しました。代行で手続きをするサイトもある様ですが、手数料がかかるので自分で申請した方が良いと思います。余談ですが、留学中のホリデーにアメリカ旅行する予定があれば、出国前に予め ESTA も取得しておいても良いかもしれません。携帯電話は、SIM カードを現地で購入してカナダの電話番号を入手し、自分の携帯をそのまま使用していました。飛行機は、私が渡航する時期は直行便がなかつたので、伊丹空港－羽田空港－トロント－ウィニペグの経路で行きました。渡航時は何もかもが不安だったので、マニトバへ留学する 3 人一緒に行けて心強かったです。帰路はバンクーバー経由にしました。

③ 現地到着後

現地到着後はワクワクよりも不安が大きかったのですが、現地に 21 時頃着くと、ホストファザーが車で迎えに来てくれていて、スーツケースも運んで下さり、とてもフレンドリーで、本当に優しく親切な方でホッとしました。ステイ先に向かう車の中では、家のルール（例えば、シャワーは 10 分、洗濯は週に 1 回、電気はつけっぱなしにしない等）を詳しく教えて下さったのでとても分かり易かったです。学校が始まる 2 日前に現地に着き、到着の次の日は実際に大学まで行って降りるバス停や、自分の授業を行う建物等を教えてもらいました。学校初日は、クラス発表や学校案内等のオリエンテーションがありました。

④ 語学研修機関

◆ 施設・環境・スタッフ

大学はとても広く、売店や食堂、ジム、ビリヤード場、カフェなどの施設も充実していて快適でした。分からないことがあればスタッフの方に聞くと親切に教えて下さいました。大学の敷地内にはリスやグースがいて、自然豊かでとても癒されました。

◆ 授業内容、課題、試験

出国前に日本で受けたプレイスメントテストの結果によって300～700までのクラスが決まり、2か月ごとのミッドテストとファイナルテストの結果でレベルが上がったりステイしたりします。テストは大学のパソコンで受けます。授業はリーディング、文法、スピーキング、リスニングのクラスがあり、課題はほぼ毎日ありました。授業のレベルが上がるにつれて、日本語で議論をするのでさえ難しい内容を英語で話し合ったり、課題も多くなり、毎日大変でした。最初は、伝えたいことが上手く伝えられなくても、だんだん考えなくても勝手に言いたいことが言えるようになり、楽しんで授業を受けることができるので安心してください。また、プレゼンテーションもあり、資料作りに時間がかかりましたが、発表するのは毎回楽しみでした。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

毎週火曜日の Language Exchange に何回か参加しましたが、放課後遅くからの開始だったので、後半はあまり行かなくなりました。週末の放課後は学校のアクティビティがあり、ウィニペグの観光名所やイベントへ連れて行ってもらったので、参加していました。また、ウィニペグで夏に開催される異文化フェスティバルについての研究発表をするために、“Folklorama” の日本パビリオンで受付のボランティアをしました。いつもと違うコミュニティの中で過ごした1週間は、本当に貴重な体験ができたので、チャレンジして良かったです。

⑥ 現地での住まいについて

現地ではずっとホームステイでした。ホストファミリーは、ウィニペグ出身の60歳過ぎの夫婦2人でしたが、息子2人が近くに住んでいたのを週に1、2回は孫（9歳、12歳、15歳の男の子）を連れて遊びに来てくれたり、とてもウェルカムな家庭だったので、頻繁にお友達が遊びに来たりしていつも賑やかでした。家から大学まではバスを乗り継いで1時間程かかりましたが、とても環境のいい地域でした。食事はいつもマザーが作ってくれて、大学でのランチは前日のディナーの残りを持って行ったり、サンドイッチを作ってくれました。とても美味しかったので、毎日食事の時間が楽しみでした。また、運転が好きなファザーだったので、出かける時はよく送り迎えをしてくれて大変助かりました。せつかくのホームステイなので、毎日の家族との会話の時間を多く取るようにしました。日曜日には、息子家族や友達が集まり、テラスでチキンを丸ごと焼いてくれたり、焼きマッシュマロを食べたりして、みんなで沢山お話しして遊んで、という楽しい1日を過ごしていました。

⑦ 長期休暇の過ごし方

4月末からのセメスターブレイクの約1週間は、マニトバ大学で知り合った友達男女5人でニューヨークへ行き、6月末からのブレイクにはロサンゼルス、グランドキャニオンを女子4人旅しました。また、ミネアポリス旅行や、プログラム終了後にはモントリオールとナイアガラ、トロントへ4泊5日の一人旅をして存分に満喫しました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も印象に残っていること

何と言っても多くの人達と出会い、友達になれたことです。また、ホストファミリーと一緒に過ごす毎日が楽しくて仕方ありませんでした。8月の私の誕生日会や、帰国する直前にも沢山の方々が集まってお別れ会を開いて下さり、私の一生の忘れられない思い出になりました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

毎日が快適だったので特につらかったことはありません。ただ、虫が苦手で、日本で見かけない虫が部屋やシャワーに出没するので、1人では退治できず、夜遅くにホストファミリーを呼んでしまう日が何回かあったので申し訳なかったです。

③ 文化、習慣などの違いで驚いたこと

ステイ先に夜遅くまでホストファミリーの友達が遊びに来て、毎回テレビでアイスホッケーの試合観戦をして盛り上がったり、家族の誕生日には50人程の友達が集まってお祝いしたりして、海外ならではの経験ができました。また、5月中旬からは夜10時近くまで外が明るかったので、変な感覚でした。大学では様々な国の留学生がいて、ターバンを巻いている学生や、手でご飯を食べるインド人、韓国人と一緒にご飯を食べに行くと私が食べられないほどの辛いものを好んで食べる、などその国独特の文化を目にすることがよくありました。

III. 留学志望者へのアドバイス

① 日本から持って行って特に役立つもの

- ・パソコンは必須（課題の提出やプレゼンテーションの授業で使うパワーポイントの作成や、国際課への毎月の月報等の資料作成の際に必要）
- ・ムヒ
- ・ヒートテック：現地は何でも揃っているのですが、日用品や化粧品、文房具など足りなくなったものを現地で買い物するのが楽しかったです。

② 語学力の向上、留学の成果、留学前と後で変わったこと

毎日ホストファミリーと話をしたり、大学では海外からの留学生という時間を長くしたり、なるべく日本の友達と日本語で話さないように努力をしました。そのお陰で、リスニング力とスピーキング力は大幅にアップしました。ただ、リーディングはあまり変わりませんでした。それ以上に一番伸びたのはコミュニケーション力で、以前よりも増して人と関わることが好きになり、人前で英語を話すことが全く恥ずかしくなく、積極的になりました。また、様々な国の友達ができたので、その国のことを調べたり興味を持つようになり、視野が広がりました。

③ これから留学を考えている方にアドバイス

ぜひチャレンジして下さい！もしかしたら、自分が想像していたのと違う場合もあるかもしれませんが、その時につらい事もしんどい事も、留学から帰る時には全て自分にとってプラスになることばかりだと思います。日本ではできない、今しかできない経験が沢山あるので存分に楽しんで下さい。そして、色々な国籍の人と友達になるといいと思います。一緒にいて楽しい仲間と楽しい会話をする時間は本当に幸せでした。皆さんにもこの経験を味わってほしいです。私は帰国後も韓国や台湾の友達と連絡を取り合ったり電話をして、英語力をキープするようにしています。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

将来はグローバルに活躍できる職業に就きたいです。そのためにも、今回の留学で得た英語力とコミュニケーション力をキープし、さらに向上できるように日々英語に触れることを意識し、TOEIC の点数を上げて行きたいと思っています。また機会があれば、もう一度留学を経験したいです。

V. 写真



セメスターブレイク前のグラマークラス最終日に、クラスメイトと撮った写真です。
クラスが変わるごとに沢山の友達ができました。



帰国前にみんなでバーに集まりました。
愉快的な仲間と一緒にいる時間がとても楽しかったです。

S. Y.（社会システム学科・2 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

私は幼いころから英語が好きで、留学に行きたいと思い始めたのは高校生 のときでした。兄がニュージーランドへ1 か月間留学に行っていたのですが、その影響もあり高校生 のときから「大学生になったら絶対留学する！」と心に決めていました。受験生になって志望校を決めるときにも、まず私が第一に見ていたのは留学制度があるかどうかという点 でした。初めは語学系の学部を志望していたのですが、残念なことに第一志望校に落ちて しまい、同女の社会システム学科に進むことに決めました。そのときも留学制度が整って いるかどうかを軸にしていました。

② 留学決定から出発までの準備期間

留学開始の前の年の1 1月に留学に行くことが正式に決定し、そこから留学開始する4 月までの5 か月間で様々な準備に取り掛かりました。まずは日本を離れて外国に住むとい うことで、それらに必要な書類などを準備しました。必要な書類に関しては、事前授業で 国際課から詳しく説明を受けるので、しっかり説明を聞き、必ず期限までに提出すること が大切です。個人的に注意してほしいのはパスポートの有効期限です。出発するときは有 効であっても、帰国するまでに失効してしまうと帰れなくなるので、自分が留学する期間 と有効期限をしっかりと確認して、早めに更新しなければなりません。カナダはビザが必要 ないのでビザ申請手続きはしていませんが、その代わりに eTA の申請をしました。eTA の手 続きはビザの申請手続きほどややこしくなく、オンラインで数分で行えます。eTA の申請 は各自で行うのですが、仲介サイトや偽サイトなども多いので、公式のものかどうかしっ かり確認しなければなりません。申請にかかる費用は C\$7（約 611 円）ですが、それより 高い請求があった場合は公式でないので注意です！

学習面に関しては、映画を見たり TED を聞いたりネイティブとマンツーマンで行う英 会話教室に通ったり、とにかく英語に触れて慣れるようにしていました。単語や文法など の基礎的なことはしっかり見直しておいた方が現地での授業をスムーズに受けることが できます。留学前にマニトバ大学から出されるプレイスメントテストを受けるのですが、そ れによって現地での授業のクラスレベルが決まるので、その対策としても基礎的なことは しっかり頭に入れておくべきです！

③ 現地到着後

現地到着後はホストファミリーが空港まで出迎えてくれました。空港からホームステイ 先の家までは車で3 0分ほどでした。オリエンテーションでは、マニトバ大学の施設や IEP のルールなど、IEP のスタッフの方がパワーポイントを用いて説明してくれました。 その時に自分がどのレベルのクラスに入るかを知ることができます。その後はマニトバ大 学の学生でもある IEP リーダーが大学案内をしてくれました。大学はとても広いので正直

この大学案内で全て覚えることはかなり難しいです！笑。

④ 語学研修機関

◆ 施設・環境・スタッフ

マニトバ大学はとても広く、大学内の施設は基本的に誰でも利用することができます。大規模なジムがあり、入会金を払えばいつでも気軽に使えます。多くの学生が集まる UC という場所には、カナダの有名なドーナツ屋さんであるティムホートンや、スターバックス、サブウェイなど他にもたくさんお店があるので、ランチタイムはいつも人がいっぱいです。留学生以外の現地の学生もたくさんいるので、毎日とても賑わっています。

◆ 授業内容、課題、試験

マニトバ大学の語学研修機関である IEP で授業を受けていました。クラスの人数は10～20人ほどで、日本、中国、韓国、ベトナム、台湾などほとんどの学生がアジア人でした。その中でも特に日本人が多かったです。月、水曜日は午後まで授業があり、火、木、金曜日は午前のみで、クラスによって授業内容も変わってきます。1ターム2か月で、毎月テストがあり、その成績と授業内の成績が合格点に満たせば上のクラスに上がることができます。テストは筆記ではなく全てパソコンで行います。クラスが上がるたびに授業のレベルや周りのメンバーも変わってきます。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

IEP のアクティビティでは、学校内のホッケー場でアイススケートをしたり、動物園や美術館に行ったりなど、毎週様々なアクティビティに参加できます。

⑥ 現地での住まいについて

ホームステイ先は学校からバスを乗り継いで約30分のところにありました。フィリピン人の30代の夫婦とハウスメイトと4人で暮らしていました。ハウスメイトはホストペアレンツと同じフィリピン人で、学生ではなくウィニペグで働いていました。3人とも家では基本的にタガログ語で会話をしていたので、会話の中に入れないことも多々ありました。ご飯は「家にあるものはなんでも食べてもいいよ」という感じでかなり自由でしたが、あまり料理をしない方だったので、買ってきたものが多くかなり偏りがありました。週3でケンタッキーのフライドチキンが夜ご飯ということもたくさんありました。洗濯は週に1回で、お風呂は共用でした。ホストファミリーは優しくていい人たちでしたが、どうしても価値観が合わず、帰国する頃にはあまり会話をしていませんでした。帰国まであと一週間というところでホストファミリーが新しい家を買ったので引っ越しをしました。そこは学校からも遠く、かなり不便な場所にありました。留学中に引っ越すことなどないと思っていたので、とても驚きました。

⑦ 長期休暇の過ごし方

基本的に1タームが終わるたびに10日間ほどの長期休暇があります。私は長期休暇が2回あったのですが、どちらも友達とアメリカへ旅行に行きました。1回目はニューヨーク、2回目はロサンゼルス周辺を観光しました。ニューヨークでは、タイムズスクエアや

自由の女神像など、テレビでしか見たことのないものを実際に見ることができました。ロサンゼルス旅行では、ロサンゼルス市内はもちろん、カリフォルニアのディズニーランドやサンタモニカビーチなども観光しました。一番印象に残っている場所はグランドキャニオンです。想像さえもできなかった光景を見ることができて、本当に良い経験ができました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も印象に残っていること

正直、ウィニペグには遊べるところが少なく、日本の生活に慣れているとかなり物足りなさを感じていましたが、留学中に日本人はもちろん、たくさんの他国の友達ができ、それが最も思い出に残っていることです。年齢性別関係なく、色々な国の友達と英語を使って話せたことが何よりも印象に残っています。国によつての価値観の違いなども学ぶことができ、帰国してからも連絡を取り合ったりしています。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

最もつらかったこと、苦勞したことは、ホストファミリーとあまり仲良くできなかったことです。留学開始当初は帰宅するたびに学校の様子などを聞いてくれて、たくさんお話しもしていましたが、後半は帰宅しても夫婦2人の寝室で映画を見ていたり、すでに寝てしまっていたりと、あまり会話ができませんでした。周りの友達のホストファミリーは毎日ご飯も作ってくれるのに、私のところだけいつも買って来たものだな、などと周りと比較をしまったりしてだんだんお互い距離を取るようになってしまいました。快く歓迎されていないような気がしてすごくショックを受けました。

③ 文化、習慣などの違いで驚いたこと

夏の間の日照時間がとても長いことに驚きました。日が落ちるのが大体22時ほどだったので、時間の感覚がわからなくなりました。外が明るいために夜遅くまで友達と遊んだりできたのはとてもよかったのですが、早く寝たくても眠れなかったりとたまに不便なところもありました。他にも、洗濯が週に一回であること、お風呂とトイレが必ず一緒になっていること、お風呂に湯船がないことなど、実際住んでみるとかなり不便で戸惑うことがたくさんありました。

III. 留学志望者へのアドバイス

① 日本から持って行って特に役立つもの

パソコンはあったほうが確実に便利です。プレゼンテーションなどでパワーポイントを使ったり、授業内でのエッセイや、月報を書く際に利用します。文房具や化粧品の替えなどは、日本のもののほうが断然使いやすいので、必要ならば持って行ったほうがいいと思います。洗濯は基本干すことはなく全て乾燥機を使うので衣類はかなり傷みやすいです。お気に

入りの服などは持って行くのを控えたほうがいいと思います。

② 語学力の向上、留学の成果、留学前と後で変わったこと

留学が始まって1、2か月ほどでリスニング力が確実に伸びていることを実感しました。映画を字幕なしで見ても内容がしっかり頭に入ってくるようになりました。授業内でのプレゼンテーションやディスカッションで自分の考えを簡潔に表現する力がついたと思います。留学前までは会話の際、日本語を英語へ、英語を日本語へ毎回頭の中で翻訳していましたが、翻訳する前に言葉が出てくるようになりました。帰国後に TOEIC を受けたのですが、留学前に受けた TOEIC の点数から 100 点上げることができました。中でもリスニングパートの点数が上がっていました。

③ これから留学を考えている方にアドバイス

セメスター語学留学は5か月という非常に短い期間です。留学開始当初は何もかも初めてで戸惑うことも多く時間が過ぎるのが遅く感じるため、帰国までの時間にも余裕があるように感じていましたが、慣れてくると本当に一瞬で過ぎ去ってしまいます。後悔ややり残したことがないように、一分一秒を大事に過ごしてほしいと思います。マニトバ大学の IEP には日本人が多いので、日本語を喋ってしまうこともあるかと思いますが、なるべく日本人の友達とも英語で話すことを心がけてほしいです。日本ではできないようなことがたくさんできるので、絶対に後悔のないように常に目標を決めて楽しんでほしいと思います！

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

将来の夢は明確には決まっていますが、英語を活かせる職業に就きたいと思っています。分野を問わず英語を活かせる職業はたくさんあると思うので、これから探していきたいと思っています。そのために、日頃から英語に触れることが重要だと思います。帰国して2か月が経ちますが、もうすでに英語が頭から抜けていっているような感覚があるので、とにかく英語を話す機会を見つけて、心がけていきたいと思っています。それに加えて、卒業時に TOEIC800 点を目標にしています。そのためにこれから定期的に受験し、自分の弱い分野を見つけて対策をしていこうと考えています。

V. 写真



これは長期休暇でアメリカのグランドキャニオンに旅行に行った時の写真です。

今まで見たことのないような景色に本当に感動しました。

留学を機にこういったことも体験できて本当に最高の思い出になりました。

これから一生忘れることはないと思います。



これは授業終わりにクラスメートと撮った写真です。

8月に1か月だけ韓国と台湾からたくさんの留学生が来ました。

それまでは、日本人ばかりのクラスであり刺激がなかったのですが、

このクラスでは様々な国の人と関わることができたので、

とても刺激になったし、自分の弱点もを見つけることができました。

特に、このクラスでは毎週プレゼンテーションの授業があったので多くの人の意見や考え方を知ることができたので、とても楽しかったしやりがいを感じました。